

保険・年金 フォーカス

保険料で見る 世界の生命保険市場 2010

—スイス再保険のデータから—

保険研究部門 主任研究員 松岡 博司
(03)3512-1782 matsuo@nli-research.co.jp

1—はじめに

スイス再保険会社が機関誌 sigma に毎年公表している世界の保険料データは、世界の生保市場のトレンドを各国比較できる便利な統計である。長い歴史があり時系列にデータがそろうという点でもたいへん重宝で、各国の生保事情を調べる際には、まず最初に使用する統計である。

当保険・年金フォーカスにおいては今後、各担当者が世界各国の生保市場についてレポートを進めていくこととしている。今号はその皮切りとして、スイス再保険会社の統計データを情報源に、世界の生保市場の概要を見ていくこととしたい。

こうした統計の常として、過年度の数値が不断に見直されているものであるが、過去の修正分は公表されていないため、本レポートで使用している過去の数値は最新のデータとの連続性を欠くことになる。おおまかな分析としてご容赦願いたい。

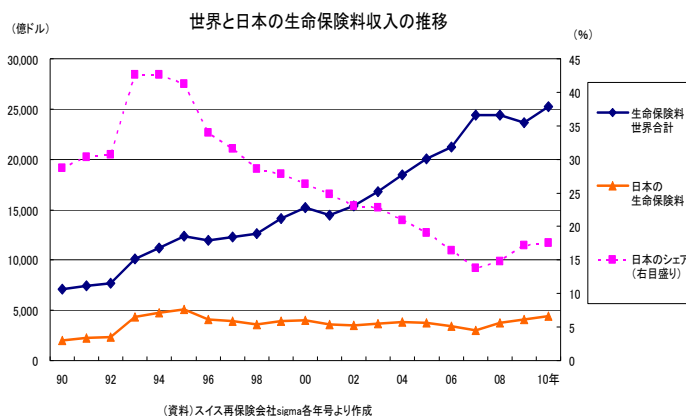
なお、sigma 各号はスイス再保険会社のホームページでダウンロードできる。最近は親切的な日本語レポートも掲載されている。読者方には、ぜひ一度、そちらをご覧になっていただきたい。ちなみに2010年の統計が掲載されている sigma2011 年第2号は以下のアドレスに掲載されている。

http://media.swissre.com/documents/sigma_2_2011_jp.pdf

2—世界の生命保険大国

1 | 世界全体の生命保険料の動き

1990年以降、日本の生命保険料が伸び悩み気味であるのに対して、世界全体の生命保険料は右上がりで伸びてきた。金融危機を受けて2008年、2009年と対前年マイナスとなったが、2010年には再び増加基調に戻っている。



2 | 生命保険料上位国の顔ぶれ

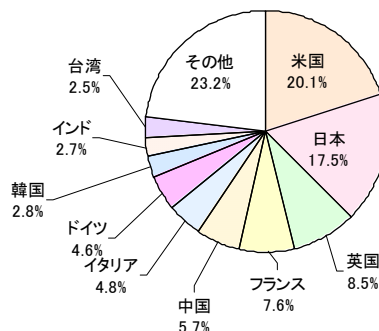
国別生命保険料シェア（2010年）の上位国を見ると、米国、日本、英国、フランス、中国の順となっている。その他の国も含めた上位10カ国で世界の生命保険料全体の4分の3が計上されており、生命保険料収入は偏りが大きい。

ただし近年は、米国、日本、英国など旧来からの上位国のシェアが低下し、中国、インド等、新興国のシェアが上昇してきている。

その結果、上位10カ国の顔ぶれを地域別に見ると、北米1カ国、欧州4カ国、アジア5カ国と、アジアが半数を占めるようになった。

なお、この順位は各国の生命保険料をドルに換算してのものであるので、為替変動の影響を受けていることに注意が必要である。日本の生命保険料は円高で高めに評価されている感がある。

生命保険料国別シェアの状況



(資料) スイス再保険会社sigma2011年第2号より作成

3 | 基準を生命保険料の実質伸び率にしてみると

そこで視点を変えて、生命保険料の伸びを見てみよう。sigmaには毎年、現地通貨建ての生命保険料を使って計算され、各国の消費者物価指数の動向に基づいてインフレの影響が調整された実質伸び率が掲載されている（ただし最新の年の伸び率のみ掲載）。そこで上記の上位10カ国につき、sigma2009年第3号、2010年第2号、2011年第2号からそれぞれ2008年、2009年、2010年の実質伸び率を抜き出して並べたものが右の表である。一番右側の3年単純平均には、3年間の3つの伸び率を足し合わせて3で割り算した単純平均値を記載してある。

生命保険料上位10カ国(2010年)の過去3年間の保険料の実質伸び率

順位	国名	実質伸び率(%)			3年単純平均
		2008年	2009年	2010年	
1	米国	▲ 3.8	▲ 14.6	▲ 0.7	▲ 6.4
2	日本	9.6	▲ 0.8	0.0	2.9
3	英国	▲ 15.7	▲ 11.8	▲ 3.3	▲ 10.3
4	フランス	▲ 13.4	11.9	2.6	0.4
5	中国	40.9	12.8	25.6	26.4
6	イタリア	▲ 15.5	46.1	9.6	13.4
7	ドイツ	▲ 1.0	6.8	6.6	4.1
8	韓国	▲ 2.8	▲ 5.8	3.8	▲ 1.6
9	インド	0.2	10.1	4.2	4.8
10	台湾	▲ 1.8	4.7	15.8	6.2

(資料) スイス再保険会社sigma2009年第3号、2010年第2号、2011年2号より作成

金融危機とその後の混乱の中、米国、英国が大きくマイナスとなる等、上位国の多くがマイナス成長の年を経験する中、中国とインドは一度もマイナスになることがなかった。特に中国の成長は著しい。昨今の欧州債務危機の中、何かと話題に上るイタリアが2010年までの3年間で見れば、相対的に大きな伸び率となっている。

同様の方式でsigmaの各号から3年分の実質伸び率をとることができた61カ国を対象に、3年間の単純平均伸び率でランク付けしてみると、トップはサウジアラビア、第2位はカザフスタンとなった。ここでも中国は第4位に入っており、近年の急激なランクアップぶりが見てとれる。一方、日本は第30位である。米国は第54位、英国は第60位と、金融危機が両国の生保事業に大きな打撃となったことがわかる。

2008年～2010年3年単純平均伸び率上位10カ国

順位	国	3年単純平均伸び率(%)
1	サウジアラビア	48.9
2	カザフスタン	47.6
3	ルクセンブルグ	27.1
4	中国	26.4
5	ペルー	22.9
6	セルビア	16.1
7	イタリア	13.4
8	リヒテンシュタイン	13.2
9	エクアドル	13.1
10	コロンビア	12.3

(資料) スイス再保険会社sigma2009年第3号、2010年第2号、2011年2号より作成

このような高い伸びを示す新興諸国の中で今後さらに大きな成長を遂げるのはどの国か。先進諸国の生保会社が新興市場に熱い視線を浴びせている。

3—地域セグメント別に見た生命保険事業

最後に、こうした傾向を地域別に見ておこう。見づらくて恐縮だが、下の表を見ていただきたい。

表の右側の生命保険料の対 GDP 割合は、生命保険料が経済規模としての GDP に対して何%に該当するかを見た指標、人口 1 人あたり生命保険料は、生命保険料を人口で割り算して人口 1 人あたりにすれば何ドルの生命保険料が支払われているかという指標である。

この表には記載していないが、近年、先進国のシェアが減少し、新興市場のシェアが高まる傾向にある。実質伸び率を見れば、先進国が 2008 年、2009 年とマイナスをつけ 2010 年も 1.8%と低成長を脱しきれていないのに対して、新興市場は毎年高い成長率を示している。対 GDP 割合や人口 1 人あたり生命保険料も、先進国と新興市場の間では、いまだ大きな開きがあるものの、新興市場の数は年々着実に拡大してきている。

地域別に見れば、中国、インドが含まれる東アジア/南アジアの増加ぶりが際立っている。両国は生命保険料の対 GDP 割合、人口 1 人あたり生命保険料はまだまだ小さいが、2000 年代に入って一気に世界ランクを上げ、10 位以内に食い込んできた。従来、生保業界の一部には人口 1 人あたり GDP が 1,000 ドルまたは 2,000 ドルを超えれば生命保険の成長が加速度的に高まるという定説的な見方があったが、両国はそうした段階を迎えて成長過程に入ったということだろう。両国の人口の巨大さが今後のいっそうの成長を確信させる。

先進国、新興市場別生保市場の動向および地域セグメント別生保市場の動向

	2010年 シェア(%)	実質伸び率(%)			生命保険料の対GDP割合(%)			人口1人あたり生命保険料(ドル)		
		2008	2009	2010	2008	2009	2010	2008	2009	2010
先進国	85.6	▲ 7.8	▲ 1.6	1.8	5.2	5.0	5.1	2,174	1,980	2,069
新興市場	14.4	14.1	6.0	13.1	1.4	1.5	1.7	47	49	62
世界合計	100.0	▲ 5.8	▲ 0.8	3.2	4.1	4.0	4.0	370	341	364
北米	22.1	▲ 3.5	▲ 11.8	▲ 0.6	4.0	3.4	3.4	1,856	1,573	1,621
西欧	37.5	▲ 16.3	4.0	2.8	5.3	5.2	5.3	2,022	1,811	1,803
日本およびアジア新興工業国①	24.2	4.8	1.9	2.4	8.0	8.0	8.2	2,448	2,534	2,886
オセアニア	1.6	17.4	▲ 23.7	2.7	2.5	3.1	2.8	1,282	931	1,110
中南米/カリブ海諸国	2.2	6.8	7.4	12.2	1.0	1.1	1.1	69	76	94
中欧/東欧	0.8	19.6	▲ 19.2	5.7	0.7	0.6	0.6	79	56	61
東アジア/南アジア(①を含まない)	9.5	19.5	11.5	17.5	2.3	2.5	2.6	47	53	67
中東/中央アジア	0.3	2.5	5.4	11.5	0.4	0.4	0.4	29	22	26
アフリカ	1.9	1.0	1.7	▲ 2.4	4.0	2.2	2.7	38	32	46

(資料) スイス再保険会社 sigma 2009 年第 3 号、2010 年第 2 号、2011 年 2 号より作成

(注) 先進国は、北米、西欧(トルコを除く)、日本、香港、シンガポール、韓国、台湾、オセアニア、イスラエル

(注) 新興市場は、中南米、中欧および東欧、東アジアおよび南アジア、中東(イスラエルを除く)、中央アジア、トルコ、アフリカ

(注) ①のアジア新興工業国は香港、シンガポール、韓国、台湾

4—さいごに

スイス再保険会社は sigma の最新号である 2011 年第 5 号「新興市場における保険-成長性と収益性」の中で、2021 年には生命保険料のランキングにおいて、日本、英国、フランス等がランクを下げる一方、中国が第 2 位に躍進し、インドも第 6 位にランクアップするという予想を示している。

今後の生命保険地図の有り様に注目していきたい。